

ごうけーごうこ

務を監督し、後見人の缺けたる場合には、其後任者の缺任を補し又は親族會議を召集して其選任をなし、後見人と後見を受ける人との利益相反する場合に、後見を受ける人を代表し、若し急迫なる場合には、必要の成分をなすもの、最後に親族會議を行はざるもの、指定によるものを指定後見監督人といひ、親族會議の選定によるものを指定後見監督人といふ。——「後見人」(名) [法] 親族會議又は未成年者の後見をなす人、最後に親族會議の規定によるものを指定後見人といひ、法律の規定によるものを法定後見人といひ、親族會議の選定によるものを選定後見人といふ。

ごうきーごうき

(ごうき) [公告] (名) 廣く世上に告ぐこと。(ごうき) [後刻] (名) ごとく。のちほど。(ごうき) [興國] (名) 勢のあこりよるよ國。(ごうき) [後昆] (名) のちの世の人。又、子孫。(ごうき) [公差] (名) 貨幣の實質の品位量目と法定の品位量目との差。我國の品位の公差は、金貨は千分一にして銀貨は千分三、量目は各種割合を具にす。①度量衡にて、一定の標準と實際のものとの差を法律にて認許したる範圍。(ごうき) [後妻] (名) のちのさい。再嫁。(ごうき) [口才] (名) 口前のよきこと。辯口。(ごうき) [公裁] (名) あはれのさばき。裁判。(ごうき) [公債] (名) 國家又は地方自治體が、收支の適合を圖るため臨時に起す債務の稱。地方自治體のもの、これを地方債といひ、俗に公債といふ。國家の債務の稱とせり。其償還の時期は必ずしも一定せず、豫め償還の時期を定めずして、財政の寛裕なるとき隨意に償還を行ふものあり。又、豫め償還の年限を定め、其期限に至れば必ずこれを償還するものあり。大藏省證券の如きもまた短期の公債なり。募集の方法は政府が公衆に對して債券の賣出をなし申込をなすしむるものと、銀行をしてこれを賣出をなすしむる、更に銀行をして賣出をなすしむるものとあり。證券の諸稱を標準として、内國債と外國債とに區別す。——「赤より赤よ」(公債證券) (名) 公債特に國家の債務に對して發行する證券。せざるは赤債類にして、紅色の色を多く含有するもの、あささのり等これに屬す。(ごうき) [構想] (名) つくりかまふるかんが。①「さうさう」(想像)に同じ。

ごうさーごうさ

(ごうさ) [鴻爪] (名) 鴻が南に来るとき、跡の走るべに響に爪痕をつくれど、北に歸るときは、響すてに消えて爪痕なき義に出づ。行脚の定かからず又は経路の不明なるをいふ。①「行脚の定かからず」(名) 國家に與つられたる人などの形式を官符にて替むこと。(ごうさ) [後装] (名) 銃身又は砲身の底より彈頭を詰めたること。又、其銃身、一銃、一砲。(ごうさ) [後像] (名) 心に刻み去りたる其感受の尙ほ意識中に殘留せるもの。(ごうさ) [構造] (名) ことしう(つくると、かま(つくると)。「構造」(名) [地] 地殼の褶曲若しくは斷層によりて生じたる谷。——「さんおく」(構造山岳) (名) [地] 地殼の褶曲又は斷層によりて生じたる山嶺。——「構造式」(名) [化] 化學容積に原子價を附記して、符號と等號とを連接する分子式。例(ば)水はH₂Oなるが如し。(ごうさ) [告朔] (名) 古費、四季の初め、大極殿に出御ありて、百官の上る公文を問覽ありしこと。支那の古代に、諸侯が新年天子より受けし曆と政令とを廟に納め、毎月月初に特羊を廟に供へて其月の曆と政令とを受けしこと。(ごうさ) [工作] (名) つくると、こしらふること。①「職工の志ごと、土木のわざ。——せん」(工作船) (名) 船内に機械を備へ付け、艦隊に附隨して、飛艦の船體機關及兵器等の修繕をなす船。(ごうさ) [工作物] (名) 工作したるもの。製造(ごうさ) [恆産] (名) きたりたるもの。「品」(ごうさ) [小牛] (名) 牛の子。小きき牛。種。(ごうさ) [後肢] (名) うしろあし。

ごうきーごうき

(ごうき) [買士] (名) 諸方より選抜して官府に出す人の稱。①「新後一時諸方より選抜して朝廷に出し、人の稱」。(ごうき) [後嗣] (名) 上つぎ。又、子孫。(ごうき) [公私] (名) あはれとわたくしと。官府と民間と。社會と個人と。(ごうき) [公使] (名) 外交官の、外務大臣の監督命令を受け、條約國に駐在して自國を代表するもの、法令の定むる所により、其國に於ける自國臣民在留者の保護取締をなす權限を有す。特命全權公使、辦理公使及代理公使の區別あり。(歌麿大臣)。(ごうき) [厚志] (名) 厚きこゝろ。忠情。(ごうき) [公事] (名) 貴族の男子、わかとのこと。(ごうき) [工事] (名) 工作の仕事。實業(じ)の作業。(ごうき) [後事] (名) 將來又は死後の事。「一を託す」(ごうき) [口耳] (名) 口と耳と。「一の聲」。「一の聞きたる事を口にして自己の知能となす能く、其まゝにこれを言説にあぐると、「一の學」。「さんずん」(口耳三寸) 學問の同化力少く知識の減少なるをいふ。(ごうき) [公示] (名) あはれに告ぐこと。ひろくまめすと。——「さいこく」(公示催告) (名) [法] 權利又は請求の届出をなすしむるためになす催告。此手續の管轄は區裁判所に屬し、多くは官報又は公報に掲載してこれをなす。若し其期間少くなくとも掲載當日より六ヶ月を過ぎても、管轄者なくが届出をなすときは失効を通るものとす。又、失踪者に届出をなすしむるために多くは此手續をなす。——「そうだつ」(公示送達) (名) [法]

ごうきーごうき

新路上に於ける書類送達の一法、當事者の所在地が不明なるか、若しくは通常の方法による能はざるかの場合に行ふものにして、掲示場又は新聞紙などに掲載してこれをなす。(ごうき) [厚酬] (名) てあつき報酬(は)。(ごうき) [拘收] (名) とらふ。さまたせむこと。(ごうき) [公式] (名) 公式。あはれに定めたる方法。①「計算の法を表はす式。②法令公布の式」。(ごうき) [公使館] (名) 公使が駐在國に於て事務を執る場所、國際法上本國の領地と看做され、駐在國の主權の範圍外なりとす。——「赤よきくわん」(公使館書記官) (名) 公使館に附屬し、公使の職務を補助する高等官。(ごうき) [後室] (名) やしめ。未亡人(主に身分ある人に)。①「ひま」。(ごうき) [口實] (名) 口ひたつる種。ちひひき。(ごうき) [攻習] (名) をさめめらふこと。(ごうき) [厚謝] (名) あつち報酬をいふこと。(ごうき) [巧者] (名) 事に巧みなる。上手(う)。(ごうき) [叩謝] (名) 頭をたれて謝すること。(ごうき) [紅晶] (名) [礦] 紅色の水晶。(ごうき) [工匠] (名) たくみ。だいく。職人。①「工作物にあらはれたる工匠。②「あるる情」。(ごうき) [厚情] (名) 厚きなさけ。ねんご(ごうき) [口上] (名) ことばにていひ傳ふる。①「御行物にて、其仕組の番頭を陳ぶること。②「いひ」(口上言) (名) 口上をいふ人。——「かんばん」(口上看板) (名) 御行物にて其仕組の番頭を記し出す看板。(ごうき) [攻城砲] (名) 巨大なる一(砲)。

ごうきーごうき

種の火砲。威力強大にして、堡壘軍營等の堅牢物を破壊し、其他多大の損害を敵兵に與ふるために用ひらる。通常重量に八頭の馬を用ふ。(ごうき) [公生涯] (名) 一生の事。公共の事に關係して活動したる間の稱。(ごうき) [公爵] (名) 五等爵の第一。(ごうき) [侯爵] (名) 五等爵の第二。(ごうき) [公主] (名) 支那にて、君王の女の稱。(ごうき) [叩首] (名) 首を地につけて禮拜すること。いとねんごに辭儀する。①「ごうき」(叩首) (名) かがむ。かへりかへりかへり。②「内にあるもの又は隠したる事象などを引出すこと。③「ごうき」(攻守同盟) (名) 二國以上同盟して、其中の一國が他國外の敵國と開戦する場合に、これを助けて敵國と開戦すること。①「士」(大將)。(ごうき) [鴻儒] (名) 學問深き人。大學者。博識。①「ごうき」(口授) (名) ロゴからさげつたまること。直接にをいふこと。①「ごうき」(公衆) (名) 世間の人々。社會の人。(ごうき) [口述試験] (名) 口にて問題を述べ、口にて解答をなすしむる試験。(ごうき) [紅校裏章] (名) 自己の危險を顧みずして人命を救助したるものに、下賜せらる。褒章。(ごうき) [公署] (名) やくば。やくまよ。公吏の事務を執る所。①「ごうき」(荷且) (名) まじらあはせ。かりせめ。ごうき) [一] (名) 一。

ごうきーごうき

(ごうき) [口書] (名) くちがき。口供。供狀。(ごうき) [洪鐘] (名) 大なるつりがね。(ごうき) [公證] (名) 表立たる證據。①「法」(國家又は公共團體の機關が、其職權により或事實を證明するに必要なる行為又は形跡)。(ごうき) [公證人] (名) 人民の囑託により、民事に關する公正證書を作成する公吏。司法大臣に屬す。——「やくば」(公證人役場) (名) 公證人が其事務を執る役場。(ごうき) [公職] (名) 官府又は公共團體の職。あはれのつとめ。(ごうき) [紅色] (名) くれなゐのいろ。あかきいろ。——「さうり」(紅色漢) (名) 紅(ごうき) [紅漢] (名) 紅漢に同じ。(ごうき) [詰辱] (名) はがかしめ。はざ。(ごうき) [後身] (名) 生まれかほりの身。①「ごうき」(後進) (名) 後より進みゆくこと。②「ごうき」(功臣] (名) 國家に功勞ある臣。明治の士。③「後より進みゆく人」。(ごうき) [功臣] (名) 國家に功勞ある臣。明治の士。③「後より進みゆく人」。(ごうき) [後人] (名) のちの人。後世の人。(ごうき) [興信所] (名) 取引の便利を圖りかねて其危險の財產を目的として、商賣者の知らんと欲する他人の財産上の状態につき、確實なる調査又は報道をなす所。(ごうき) [候] (名) さぶらふ。はんべ(ごうき) [他] (名) うかよふ。さる。(ごうき) [白] (名) 三位以上の人の死去せらる。にいふ稱。

ごうきーごうき

(ごうき) [困] (名) さまよふ。困窮すること。①「自」(自) (名) さまよふ。困窮すること。②「自」(自) (名) さまよふ。困窮すること。(ごうき) [洪水] (名) あはれ。大水。(ごうき) [後世] (名) 後の世。まつだい。(ごうき) [後生] (名) 後に生まる。人後の學ぶこと。①「ごうき」(厚情) (名) あつちなさけ。②「人」(ごうき) [孔性] (名) [理] 物質の分子と分子との間に空隙ありといふこと。(ごうき) [控制] (名) ひきて自由の行動をなすしめざること。ひかへとむること。(ごうき) [攻勢] (名) 攻めか。あいきはひ。(ごうき) [厚生] (名) 生活の進をたかにすること。①「ごうき」(厚生) (名) 生活の進をたかにすること。②「ごうき」(厚生) (名) 生活の進をたかにすること。③「ごうき」(厚生) (名) 生活の進をたかにすること。(ごうき) [構成] (名) かま(つくると)くみだて(ごうき) [恆星] (名) Fixed star) (名) [天] 一の星の中心となりて其位置を變ぜざる星。太陽も一の恆星に對し地球を一周する時間、二十七日七時四十分十一秒餘なり。——「ごうき」(恆星時) (名) [天] 地球が恆星に對し、一回の自転をなす時間を時の單位として測りたる時間。——「ごうき」(恆星日) (名) [天] 一の恆星が兩中してより、再び兩中するまでの時間。——「ごうき」(恆星年) (名) [天] 太陽が一の恆星に對し或方向に見えてより、同一の恆星に對し、同一の方向に再び太陽の見やうまでの時間の稱にして、三百六十五日六時九分九秒なりとす。(ごうき) [公正] (名) 偏頗又は邪曲なきこと。①「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。②「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。③「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。④「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑤「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑥「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑦「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑧「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑨「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑩「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑪「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑫「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑬「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑭「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑮「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑯「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑰「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑱「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑲「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。⑳「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉑「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉒「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉓「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉔「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉕「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉖「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉗「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉘「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉙「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉚「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉛「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉜「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉝「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉞「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㉟「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊱「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊲「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊳「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊴「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊵「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊶「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊷「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊸「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊹「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊺「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊻「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊼「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊽「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊾「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。㊿「ごうき」(公正) (名) 偏頗又は邪曲なきこと。

ころせーころせ

(ころせいせいせい) 恒懐懐天(名) 心算のつねに明かにしてくらさる。

ころせーころせ

(ころせ) 控訴(名) 第一審の判決に對し不服を申立て、直轄上級裁判所に其事實を論議し、法律上の覆審を求むる事。

ころせーころせ

(ころせ) 控訴(名) 地方裁判所の判決又は決定に對して、控訴又は抗告をなす。

ころせーころせ

(ころせ) 控訴(名) 控訴の第一審の判決に對し、控訴を提出する事。

ころせーころせ

(ころせ) 肯定(名) 然りとす。肯定命題 Affirmative proposition(名) 主語と述語との一致を許容する命題。

ころせーころせ

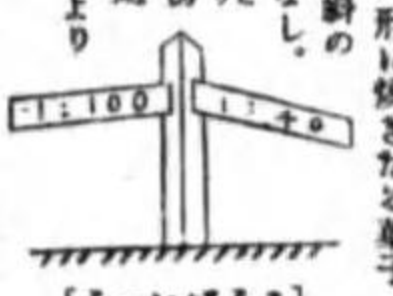
(ころせ) 控訴(名) 控訴の第一審の判決に對し、控訴を提出する事。

ころせーころせ

(ころせ) 控訴(名) 控訴の第一審の判決に對し、控訴を提出する事。

ころせーころせ

(ころせ) 控訴(名) 控訴の第一審の判決に對し、控訴を提出する事。



いよ、木は育成の徳をつかさどり、方位にては東に
あたり四時にては春にあたる、火は變化の徳をつか
さどり、方位にては南にあたり四時にては夏にあた
る、土は生田の徳をつかさどり、中央の方位にあた
り四季の主たり、金は刑罰の徳をつかさどり、方位
にては西にあたり四時にては秋にあたる、水は任養
の徳をつかさどり、方位にては北にあたり四時にて
は冬にあたる、又、木より火を生ずるを相生といひ、
土より金を生ずるを相生といひ、火は金を生ずるを
木に對つて相生といひ、陰陽家などにてはこれを
男女の性に配し、相生のものを相合すれば和合して幸
福あり、相對のものを相對すれば不和にして災難來る
といへり、**〔佛〕**五つの修行、即ち布施、持戒、忍辱、
精進、止觀の稱。



〔二〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。
〔三〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。
〔四〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。
〔五〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

十二時に十二支を配したる一時の三分の一の稱。
〔巳の上〕申の下。一、
〔六〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。
〔七〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔八〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。
〔九〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。



〔一〇〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一一〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一二〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一三〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一四〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一五〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一六〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

〔一七〕 御形(名) 御形は、こじまに同
じ。一、よもぎ御形蓬(名) 御形に同じ。

こくはーこくふ

置せる防衛(比)のよき。
(こくはく) 酷薄(名) 殘酷にしてなまけ心なきと。邪見(別稱)。

こくふーこくふ

國司の官所府中(國衙)
(こくふ) 女バコ(國府) 國府(名) 大隅國府地方より出ず。香気ありて佳良なり。

こくみーこくみ

黒褐色にして短短し。
(こくみ) 寄肉(名) こよ又はいぼ等の總稱。

こくむーこくむ

事變に際し、後備兵に於けるもの。
(こくむ) 國務(名) 國事の政務。

こくちーこくち

だち(小倉) 小倉にて製造したるもの。
(こくち) 小倉(名) 小倉にて製造したるもの。

こくちーこくち

の稱、又、世に傳へて、
(こくち) 國王(名) 國の元首の王と號するもの。

こけーこけ

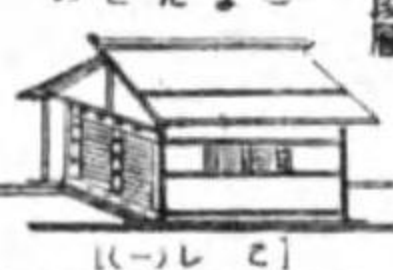
の處、一の衣、
(こけ) 名(名) 美濃國地方の方言。

こけーこけ

大衆宗教、一衆宗教、
(こけ) 名(名) 大衆宗教、一衆宗教の稱。

こしこし

て、其腰部にあたる所の稱。衣服などの腰部にあたる部分。...



こしこし(古史)名 古代の歴史、古代史。こしこし(胡堂)名...

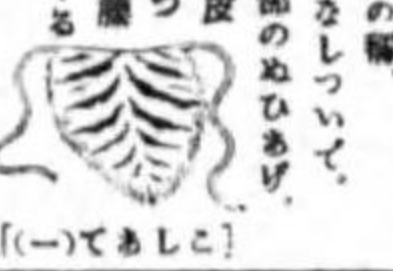
こしこし

こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...

こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...

こしこし

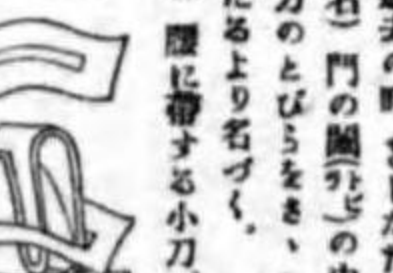
こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...



こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...

こしこし

こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...



こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...

こしこし

日の暮を用ふるが如く既の底に敷きしもの。こしこし(腰)名...

こしこし

夜に委せしより此名あり。夜替金鏡。こしこし(腰)名...

こしこし

こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...

こしこし

こしこし(腰)名 物を結するに用いられる。こしこし(腰)名...

こねすーこねん

こねすーこねん
こねすーこねん
こねすーこねん
こねすーこねん
こねすーこねん

こねたーこねま

こねたーこねま
こねたーこねま
こねたーこねま
こねたーこねま
こねたーこねま

こねりーこねん

こねりーこねん
こねりーこねん
こねりーこねん
こねりーこねん
こねりーこねん

この木ーこのは

この木ーこのは
この木ーこのは
この木ーこのは
この木ーこのは
この木ーこのは



このはーこの木

このはーこの木
このはーこの木
このはーこの木
このはーこの木
このはーこの木

このもーこのも

このもーこのも
このもーこのも
このもーこのも
このもーこのも
このもーこのも

このはーこのは

このはーこのは
このはーこのは
このはーこのは
このはーこのは
このはーこのは

このはーこのは

このはーこのは
このはーこのは
このはーこのは
このはーこのは
このはーこのは



こむらこむら

こむらこむら(自) 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら...

こむらこむら

こむらこむら(自) 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら...



こむらこむら

こむらこむら(自) 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら...

こむらこむら

こむらこむら(自) 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら... 籠(籠) 入りこむらこむら...

こめやこめや

こめや(自) 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋...

こめやこめや

こめや(自) 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋...

こめやこめや

こめや(自) 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋...

こめやこめや

こめや(自) 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋... 米(米) 米を煮る人又は米屋...

こんずーこんせ

わと。●神氣もとろへ身骨つかれてたろつとりとしてねむりてある。

こんだーこんで

さまじい上頭。●法身又は法胎なきさまじい上頭。

こんてーこんに

こんてんてん(渾天儀)名 地球の表面に日月星



こんにーこんに

このごろい。

こんせーこんせ

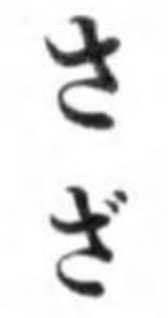
は帯の袂をなし、褐色にして體內に赤線畫を會有す。

こんせーこんり

こんむらち(濃村渡)名 色の濃きむらち。

こんりー

の時は、一のきよい(我龍御衣)名 古昔天子の御服。



きーきー

歌を減じたる値(二歌の一)。

さいせーさいせ

皇祖を尊崇したまふは即ち國家を統御したまふ所
以にして、宮殿は神聖の正宮と天皇の所在とをかね
たりし状態の朝。

さいせーさいせ

さいせふし(妻妾)名 つまどめかけと。
さいせん(再選)名 再度選出する。又、再度
選出する。

さいせーさいせ

さいせん(賽銭)名 神佛に奉詣して奉る錢。
さいせん(賽銭)名 社寺などで、
賽銭を受けるに附ける。

さいせーさいせ

さいせふし(妻妾)名 つまどめかけと。
さいせん(再選)名 再度選出する。又、再度
選出する。

さいせーさいせ

會計年度内に於ける収入の總額、歳出の對
(さい)はん(再任)名 再び其官に任ぜらるゝと。
(さい)はん(罪人)名 罪を犯した人。はんさい
はん。つみと。とがはん。

さいせーさいせ

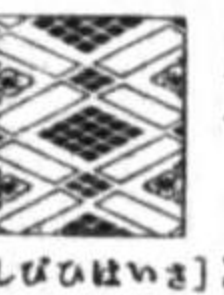
さいせふし(妻妾)名 つまどめかけと。
さいせん(再選)名 再度選出する。又、再度
選出する。

さいせーさいせ

さいせん(賽銭)名 神佛に奉詣して奉る錢。
さいせん(賽銭)名 社寺などで、
賽銭を受けるに附ける。

さいせーさいせ

さいせふし(妻妾)名 つまどめかけと。
さいせん(再選)名 再度選出する。又、再度
選出する。



さりとて

(さりとて) 雙魚(名) 二匹の魚を、一匹と見做す。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) さかんなるもの。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) ナカヤカた。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) 相互會社(名) 基金十萬以上ある相互保險の組合。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) 二匹の魚を、一匹と見做す。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) さかんなるもの。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) ナカヤカた。...

さりとて

(さりとて) 雙魚(名) 相互會社(名) 基金十萬以上ある相互保險の組合。...

さりとて... さりとて... さりとて...

か「権術家」(名) 権術を行ふ人。又、権術に巧むる人。ヤリツカひ。
(さりとて)「早春」(名) 春のはじめ。はつばを更にくつし、字畫の最も端せられたるもの。
(さりとて)「相稱」(名) 所屬の藝術。所有書。と。左右。

さりとて... さりとて... さりとて...

か「権術家」(名) 権術を行ふ人。又、権術に巧むる人。ヤリツカひ。
(さりとて)「早春」(名) 春のはじめ。はつばを更にくつし、字畫の最も端せられたるもの。
(さりとて)「相稱」(名) 所屬の藝術。所有書。と。左右。

さかば

飲むとき... さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて...

さかばやし

さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて... さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて...

さかばやし

さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて... さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて...

さかばやし

さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて... さかばやし(酒林)名 酒屋にて、杉の葉を束ねて...

さかり

さかり(嵯峨流)名 泰山の西方の一派... さかり(嵯峨流)名 泰山の西方の一派...

さかろ

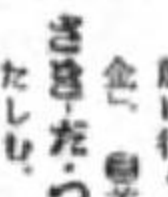
さかろ(鷺)名 鷺の羽... さかろ(鷺)名 鷺の羽... さかろ(鷺)名 鷺の羽...

さかろ

さかろ(鷺)名 鷺の羽... さかろ(鷺)名 鷺の羽... さかろ(鷺)名 鷺の羽...

さかろ

さかろ(鷺)名 鷺の羽... さかろ(鷺)名 鷺の羽... さかろ(鷺)名 鷺の羽...



さげん

ものを、官より民間にもどし授けし。
さげんもの「提物」(名) 腰に提して運ぶもの。即ち、巾着又は印籠の類。

さごん

に同じ、「一」にありてきせん。
(枕)「繕」に擬する「一」をつくばねるの。

さざり

をなすよりいふ。腹足類中前脚類に属する軟體動物。介殼は厚くして拳状をなす。外面は暗褐色にして内面は黄白色を呈す。殻孔は大いに開き、螺殻状をなし平滑なり。帯は石灰質にして堅硬なり。我州東海より西海にかけて多く産す。其肉は多く歯痛に効する。
(名) 心根のまがかりたるにたといふ語。
(名) 心根のまがかりたるにたといふ語。
(名) 心根のまがかりたるにたといふ語。



さざり

「石を」。
さざり「証蜘蛛」(名) 蜘蛛の一種。腹脚長し、草木の枝葉又は芝の上などに平たき網を張り、片隅に穴をあけて、其中に隠れて餌の来るを待つ。
さざり「証栗」(名) 栗の一種。皮は硬く、肉は甘く、味は香る。
さざり「証豆」(名) 豆の一種。皮は硬く、肉は甘く、味は香る。

さげん

さげん「証魚」(名) 魚の一種。
さげん「証米」(名) 米の一種。
さげん「証骨」(名) 骨の一種。
さげん「証竹」(名) 竹の一種。
さげん「証草」(名) 草の一種。
さげん「証花」(名) 花の一種。
さげん「証果」(名) 果物の一種。



さざり

さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。
さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。
さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。

さざり

さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。
さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。
さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。

さざり

さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。
さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。
さざり「証私語」(名) 私語をひそめて話すと、又、私語をひそめて話すと。

さだむ さちゆ

判明す。はさきりす。●編に就く、やすむ、人さだまりて夜粉かなり。
さだむむのさびむ [定] (他、下二) ●動かぬやうにす。●定むらぬやうにす。たしかにす。さむ。●さむまらす。あちつかす。●定むす。さむ。●さむまらす。●判明にす。はさきりさす。●論す。評す。●品を。

さちゆー さつじ

官に属し、官中の職務を掌りし職名。なかのちほと。●「サ、幸矢の對」。
さちゆーゆみ [幸弓] (名) 狩獵に用ふる弓。さつじ。●さつじ。●「サ、幸矢の對」。
さつじ [札] (名) 舟目名、才の十分の一。
さつじ [札] (名) 舟目名、才の十分の一。
さつじ [札] (名) 舟目名、才の十分の一。
さつじ [札] (名) 舟目名、才の十分の一。

さつじー さつりく

さつじ [雜器] (名) ●種々雑多の器。●神棚に供物を盛る太藪の小盆及酒徳利の口などの稱。
さつじ [雜記] (名) 種々の事を記する。又、其の「貞丈」一帖。
さつじ [雜記] (名) 種々の事を記する。又、其の「貞丈」一帖。
さつじ [雜記] (名) 種々の事を記する。又、其の「貞丈」一帖。

さつじー さつめ

商品。●小間物。●木やちの「雜貨商」(名) 雜貨を賣きふ人。●てん「雜貨店」(名) 雜貨を賣きふ店。●小間物。●風船。
さつじけの [雜物] (名) ●さつじけのと同じ。
さつじけの [雜物] (名) ●さつじけのと同じ。
さつじけの [雜物] (名) ●さつじけのと同じ。

結屋 [名] 雜物の取次又は販賣をなす書肆。
さつじ [雜事] (名) いろいろの事。種々の俗事。
さつじ [雜事] (名) いろいろの事。種々の俗事。
さつじ [雜事] (名) いろいろの事。種々の俗事。

さつじ [雜性花] (名) 風船。●種々の花。
さつじ [雜性花] (名) 風船。●種々の花。
さつじ [雜性花] (名) 風船。●種々の花。

さつじ [雜土] (名) 一つまみのつち。又、小量のつち。
さつじ [雜土] (名) 一つまみのつち。又、小量のつち。
さつじ [雜土] (名) 一つまみのつち。又、小量のつち。

さつじ [雜物] (名) ●種々の物。●「サ、幸矢の對」。
さつじ [雜物] (名) ●種々の物。●「サ、幸矢の對」。
さつじ [雜物] (名) ●種々の物。●「サ、幸矢の對」。

さつじー さつりく

さつじー さつりく

さつじー さつりく

さつじー さつりく

さつじー さつりく

さばすーさばら

さばすー(雑魚) 〔魚〕他(三四) 鱈の腹を去る。水に浸して晒す。
さばすー(雑魚) 〔魚〕他(三四) 鱈の腹を去る。水に浸して晒す。
さばすー(雑魚) 〔魚〕他(三四) 鱈の腹を去る。水に浸して晒す。



[さばす]

さばりーさび

さばりー(胡銅器) 〔名〕(砂器?)の一種。或は新羅の古銅器より出づ。今日の朝鮮語にてこれをさばりーといふ。
さばりー(胡銅器) 〔名〕(砂器?)の一種。或は新羅の古銅器より出づ。今日の朝鮮語にてこれをさばりーといふ。

さびーさぶ

さびー(錆) 〔名〕 錆の如きもの。
さびー(錆) 〔名〕 錆の如きもの。
さびー(錆) 〔名〕 錆の如きもの。

さぶーさぶす

さぶー(雑木) 〔名〕 雑木。
さぶー(雑木) 〔名〕 雑木。
さぶー(雑木) 〔名〕 雑木。

さぶだーさぶら

さぶだー(雑魚) 〔名〕 さつだいに同じ。
さぶだー(雑魚) 〔名〕 さつだいに同じ。
さぶだー(雑魚) 〔名〕 さつだいに同じ。

さぶらーさへ

さぶらー(座敷) 〔名〕 座敷。
さぶらー(座敷) 〔名〕 座敷。
さぶらー(座敷) 〔名〕 座敷。

さぶしーさぶか

さぶしー(座敷) 〔名〕 座敷。
さぶしー(座敷) 〔名〕 座敷。
さぶしー(座敷) 〔名〕 座敷。

さぶがーさぶら

さぶがー(座敷) 〔名〕 座敷。
さぶがー(座敷) 〔名〕 座敷。
さぶがー(座敷) 〔名〕 座敷。

さるやーさる

さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。

さるやーさる

さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。

さるやーさる

さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。

さるやーさる

さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。
さるやーさる(名) 薩摩藩の藩主。

さん

さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。

さん

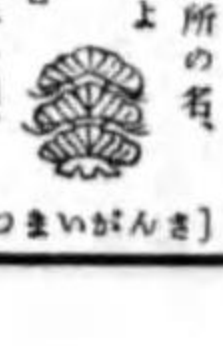
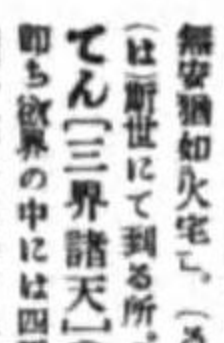
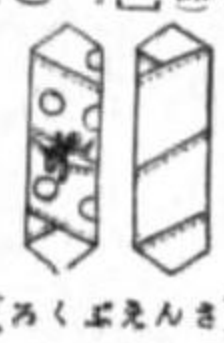
さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。

さん

さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。

さん

さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。
さん(名) 薩摩藩の藩主。



さんくーさんけ

(さんくわん)三関(名) 上海・中津・下津の關。
(さんくわん)三関(名) 古昔、三つの重要な關所、即ち結前關、關前關、關後關を指す。
(さんくわん)三関(名) 關前關、關後關、關中關の三關を指す。
(さんくわん)三関(名) 關前關、關後關、關中關の三關を指す。
(さんくわん)三関(名) 關前關、關後關、關中關の三關を指す。

さんけいーさんげ

(さんけいばく)傘形木(名) 外輪の傘形に形をなす木。松、びくろ、くまの松等。
(さんけいばく)傘形木(名) 外輪の傘形に形をなす木。松、びくろ、くまの松等。
(さんけいばく)傘形木(名) 外輪の傘形に形をなす木。松、びくろ、くまの松等。

さんげーさんて

(さんげ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんげ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんげ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。

さんてーさんじ

(さんて)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんて)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんて)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。

さんてーさんぶ

(さんて)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんて)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんて)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。

さんぶーさんぶ

(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。

さんぶーさんぶ

(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。

さんぶーさんぶ

(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。
(さんぶ)産後(名) 子を産みたる後、分娩のあと。

さんせーさんせ

(さんせい) [殘生] (名) 水くもあらしぬ命、残りりのいのち。...



[をうろせんさ]

さんせーさんせ

(山椒魚) (名) 鱈科魚類に属する草、水上に群生す。...

さんせーさんせ

(さんせん) [新然] (名) 他より被さげいで、一段高きまに上る。...

さんせーさんせ

(さんそく) [山岳] (名) 山のすそ、ふもと。...

さんだーさんだ

(さんだ) [參内] (名) 内裏(参内する)。(参内)...

さんだーさんだ

(さんだ) [山道] (名) 山中に通ずる道路、やまみち。...

さんだーさんだ

(さんだ) [三段] (名) 三段推論(三段論法) (名)...

さんちーさんち

(さんち) [參着] (名) 外國爲習の一覽、換即ち、...

さんてーさんぶ

(さんてき) 殘敵(名) うちもろまれたる敵。
(さんてき) 殘敵(名) のこりの敵。
(さんてん) 山頂(名) 山のいたゞき。山頂。
(さんてん) 三天(名) 佛曆利度天、神日天、成天の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。
(さんてん) 三傳(名) 春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳の稱。

さんぶーさんぶ

一年に三度産する卵よりつく。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。
(さんぶまめ) 三度豆(名) 一種の豆。

さんねーさんば

(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。
(さんねん) 殘年(名) のこりのよはひ。

さんばーさんば

事又は食事のこりのもの。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんばり) 三寶(名) 佛の三つのたから。



さんばりさんば

さんばーさんび

人家にありては(さんば)を居敷となすといふより、
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。
(さんば) (名) 居敷となすといふより。

さんびーさんぶ

一世の徳を讃美する歌。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。
(さんびつ) 三筆(名) 三人の能書家。

さんぶーさんぶ

(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。
(さんぶ) 三伏(名) 夏至後の第三の庚。

さんぶーさんば

(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。
(さんぶ) 三寶(名) 佛の三つのたから。

さんばーさんま

さんばり(参謀)名 作戦計畫其他一切の軍謀に與りし陸軍の武官。...

さんまーさんみ

サンマイ(三昧)名 佛(梵)語。...

さんみーさんや

サンマイク(三昧)名 佛(梵)語。...

さんやーさんり

さんやざり(山谷草履)名 昔時流行せし草履。...

さんりーさんり

さんりり(残留)名 のこりとまると。...

さんるーさんわ

さんるる(酸)名 酸性あるもの。...

さんるーさん

さんる(三位)名 佛(梵)語。...

さんるーさん

さんる(三位)名 佛(梵)語。...

志

志 意志の強弱を言ふ。...

京元一京元

京元一京元 (名) 紫衣の僧衣、公許を得るにあらざれば着用するを得ざるもの。...

京元一京元

京元一京元 (名) 子音 (名) まいんと同じ。...



京元一京元

京元一京元 (名) 詩歌 (名) 詩とらた。...

京元一京元

京元一京元 (名) 市街宅地 (名) 有租地の一、市街は繁盛なる町内の宅地。...

京元一京元

京元一京元 (名) 至剛 (名) 極めてすこやかにして、屈せず。...

京元一京元

京元一京元 (名) 仕懸 (名) なしはじめ、去ははじめ。...

京元一京元

京元一京元 (名) 死學 (名) 役にた、ぬ學問。...

京元一京元

京元一京元 (名) 市街宅地 (名) 有租地の一、市街は繁盛なる町内の宅地。...

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(私高子)名 いんばい、ごごく。あぐわあぐわ(自畫自證)名 自畫自證と同じ。あぐわあぐわ(死活)名 死ぬるか生きるか又は休止する活動するかの決する場合、一問題。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

あぐわーあぐわ

あぐわあぐわ(自割)名 自らを切る。あぐわあぐわ(慈恵)名 慈悲の心。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。あぐわあぐわ(私經濟)名 一身一家の經濟。

本ご本一本ご本

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

本ご本一本ご本

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

本ご本一本ご本

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

本ご本一本ご本

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。

(本ご本) 自己實現 (self realization) (名) 自己に具有する個性能力を完全に發揮せしむること。



本ご本一本ご本

本ご本一本ご本

本ご本一本ご本

本ご本一本ご本

本ご本一本ご本

京京く—京京つ

このついでに、邪道其學を授けられず、これを辨別して眞理正道を闡發すると、獅子吼とあれば百獸奔りかゝるゝにたとへいふ。...

京京くはすし「猪不食」一名「猪不食」はあはれの名。...

京京くはすし「獅子座」一名「佛」佛の座を指して高僧の座。

京京くはすし「鹿白物」一名「鹿」といふもの、鹿は白くす。

京京くはすし「獅子身中蟲」一名「獅子」の身中に生じてゐるが、獅子の身に害を爲す蟲の類。

京京くはすし「猪子」一名「猪」の種を指して、猪の身中に生じてゐるが、猪の身に害を爲す蟲の類。

京京くはすし「猪子」一名「猪」の種を指して、猪の身中に生じてゐるが、猪の身に害を爲す蟲の類。

京京つ—京京ふ

京京つ「時日」一名「時」と「日」とをひととせ、ひま、一、...

京京つ「事實」一名「實際」の事から、又「眞實」の事から、...

京京つ「獅子鼻」一名「鼻」鼻の形を指して、鼻の高さをいふ。

京京つ「肉付」一名「肉」肉を指して、肉の多さをいふ。

京京つ「肉付」一名「肉」肉を指して、肉の多さをいふ。

京京つ「肉付」一名「肉」肉を指して、肉の多さをいふ。

京京つ「肉付」一名「肉」肉を指して、肉の多さをいふ。

京京ふ—京京ふ

京京ふ「四十九日」一名「四十九日」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十七士」一名「四十七士」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ—京京や

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京ふ「四十八手」一名「四十八手」は、元禄十五年、...

京京や—京京や

京京や「死」一名「死」死にしろ、...

京京や「支社」一名「支社」支社の分派、...

京京や「詩社」一名「詩社」詩人の團體、...

京京や—京京や

京京や「至情」一名「至情」情のきはむに達したる、...

京京や「詩情」一名「詩情」詩の興味、...

京京や「市上」一名「市上」市の上、...

京京や—京京や

京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...

京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...

京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...

京京や—京京や

京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...

京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...

京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...



京京や「酒」一名「酒」酒と時と、...

東京一東京

内に於て、自己の意思を主張し決行し得る権能。
(東京) 自由(名) 自由(名) 自由(名) 自由(名)
(東京) 自由(名) 自由(名) 自由(名) 自由(名)
(東京) 自由(名) 自由(名) 自由(名) 自由(名)

東京一東京

(東京) 四書(名) 大學中庸論語孟子の稱。
(東京) 七庶(名) さむらひとへいみんと、又
(東京) 私書(名) ないまじりのてがみ、一
(東京) 死處(名) 死ぬる場所、又、死ぬべき場

東京一東京

は3の自乗数なり。
(東京) 自乗(名) 自分自身の積。
(東京) 自乗(名) 自分自身の積。
(東京) 自乗(名) 自分自身の積。

東京一東京

平目の對、一の稱、一(名)
(東京) 市制(名) 市の構成又は機關若しくは
(東京) 市制(名) 市の構成又は機關若しくは
(東京) 市制(名) 市の構成又は機關若しくは

東京一東京

するを得るものなれど、又、水平軸にて交へたる
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を

東京一東京

開係、例へば成人と其曾孫の子若しくは曾祖父
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を

東京一東京

同文字より成る数字の積は、各因数の積の和
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を
(東京) 自信(名) 自ら自分の信憑又は能力を

東京一東京

比人の集居せしよりいふ、まち(名)
(東京) 市制(名) 市の構成又は機關若しくは
(東京) 市制(名) 市の構成又は機關若しくは
(東京) 市制(名) 市の構成又は機關若しくは

(素せい) ねん [次清音] 名 [文法] はんたんとく
 (素せい) くわん [司稅官] 名 稅務管理局の長
 (素せい) けん [唯性元素] 名 原子の稱
 (素せい) さんくわてつ [磁性酸化鐵] 名
 「化學」元素中に於けるか、又は融したる鐵屑
 の上に水蒸氣を通ずるときに生ずる黒色の酸化物
 磁性を有するが故に此名あり、天然にも鐵屑とな
 りて存在す。

(素せつ) 死絶 [名] 氣息絶えて死ぬること。
 (素せつ) 自説 [名] 自分の主張する意見。
 (素せつ) 時節 [名] 此時、時機、「昭和の」
 (素せつ) 待妾 [名] こしもと、又、そばめ。
 (素せん) 詩箋 [名] 詩を記す詩紙、或は人物
 花鳥等の模様あるもの。
 (素せん) 指針 [名] 針の先。
 (素せん) 私擅 [名] 自分勝手、ま、はしいま
 (素せん) 死戦 [名] 去にもいけるひになりて取
 ぶ、決死のた、かひ、殊死、血戰。
 (素せん) 紙線 [名] かうり。
 (素せん) 支線 [名] 本線より分かれたる支那の
 線、「鐵道の」。
 (素せん) 支線 [名] 本線より分かれたる支那の
 線、「鐵道の」。
 (素せん) 子孫 [名] 普通人の及ぶべからざる天
 家、か、か、か。
 (素せん) 實録 [名] もと、く、く、く、く、く、く、
 (素せん) 至善 [名] 頂上の善、「善徳」の差別
 を超したる一段高き状態、「心の本體は」。

(素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、
 (素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、
 (素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、
 (素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、

philosophy] 名 自然の本體過程及理想を研究
 する哲學。——「自然主義」(名) 遊離して自
 然に存する、古來我國に産出するを多し。——
 自然を支配する原因結果の法則。——「法」一切の法
 律以外に存する自然の法、或は人類が自然の法に
 生息するに當りて行はるる法則といふ。——「自然
 美」(名) 自然界にあらはるる、山水、風景、日月など
 の類。——「自然物」(名) 自然界に現出
 する有形物。「(經)生動物の材料を供給するもの、
 動植物の性質の異同を比較し類別して系統を立て
 たるもの。——「自然力」(名) 自然界
 の作用。「(經)人類の努力を補助する自然の力、分
 つて原始的な自然力と誘導的補助力とを、前者は風
 力水力等をいひ、後者は電氣力蒸氣力等をいひ、
 一「自然律」(名) 自然法に同じ。
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、

(素せい) ねん [次清音] 名 [文法] はんたんとく
 (素せい) くわん [司稅官] 名 稅務管理局の長
 (素せい) けん [唯性元素] 名 原子の稱
 (素せい) さんくわてつ [磁性酸化鐵] 名
 「化學」元素中に於けるか、又は融したる鐵屑
 の上に水蒸氣を通ずるときに生ずる黒色の酸化物
 磁性を有するが故に此名あり、天然にも鐵屑とな
 りて存在す。

(素せつ) 死絶 [名] 氣息絶えて死ぬること。
 (素せつ) 自説 [名] 自分の主張する意見。
 (素せつ) 時節 [名] 此時、時機、「昭和の」
 (素せつ) 待妾 [名] こしもと、又、そばめ。
 (素せん) 詩箋 [名] 詩を記す詩紙、或は人物
 花鳥等の模様あるもの。
 (素せん) 指針 [名] 針の先。
 (素せん) 私擅 [名] 自分勝手、ま、はしいま
 (素せん) 死戦 [名] 去にもいけるひになりて取
 ぶ、決死のた、かひ、殊死、血戰。
 (素せん) 紙線 [名] かうり。
 (素せん) 支線 [名] 本線より分かれたる支那の
 線、「鐵道の」。
 (素せん) 支線 [名] 本線より分かれたる支那の
 線、「鐵道の」。
 (素せん) 子孫 [名] 普通人の及ぶべからざる天
 家、か、か、か。
 (素せん) 實録 [名] もと、く、く、く、く、く、く、
 (素せん) 至善 [名] 頂上の善、「善徳」の差別
 を超したる一段高き状態、「心の本體は」。

(素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、
 (素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、
 (素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、
 (素せん) 自然 [名] 人為の加はざる状態、本
 来のま、

philosophy] 名 自然の本體過程及理想を研究
 する哲學。——「自然主義」(名) 遊離して自
 然に存する、古來我國に産出するを多し。——
 自然を支配する原因結果の法則。——「法」一切の法
 律以外に存する自然の法、或は人類が自然の法に
 生息するに當りて行はるる法則といふ。——「自然
 美」(名) 自然界にあらはるる、山水、風景、日月など
 の類。——「自然物」(名) 自然界に現出
 する有形物。「(經)生動物の材料を供給するもの、
 動植物の性質の異同を比較し類別して系統を立て
 たるもの。——「自然力」(名) 自然界
 の作用。「(經)人類の努力を補助する自然の力、分
 つて原始的な自然力と誘導的補助力とを、前者は風
 力水力等をいひ、後者は電氣力蒸氣力等をいひ、
 一「自然律」(名) 自然法に同じ。
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、
 (素せん) 自然 [名] ものづから、ま、ま、ま、ま、

東たひ—東たひ

(東たひ) [時代] (名) ときよ、年代、鎌倉、... 其項當時、時代を經ててよるびたる、時代を經てわうちの生じたると、「一がづく」...

東たひ—東たひ

たる石例、第一第二第三部などの如し。東たひに「次第」(副) 順序を述べて、さゆんぐにだんぐに...

東たひ—東たひ

(東たひ) [下] (名) 舌の上、舌の背に當つて、舌の下のまゝ、舌の下にまゝ...

東たひ—東たひ

東たひが「下金」(名) 用ひ置るしたる金、よるかね、一々「下金屋」(名) 東たひがねの買入を商賣にする人...

東たひ—東たひ

(東たひ) [下] (名) 東たひの時靴の下の用ふる足袋、くつまた。東たひが「下」(名) 足袋の下、くつまたの下...



東たひ—東たひ

いふ、①いてちち、こしらへ、一や「仕出屋」(名) 東たひをする家、おもに料理にいふ。

東たひ—東たひ

東たひが「下」(名) 東たひの常に通じると、東たひが「下」(名) 東たひの常に通じると、東たひが「下」(名) 東たひの常に通じると...



東たひ—東たひ

東たひが「下」(名) 東たひの常に通じると、東たひが「下」(名) 東たひの常に通じると、東たひが「下」(名) 東たひの常に通じると...

下折

下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。

下葉

下葉(名) 枝の下葉。
下葉(名) 枝の下葉。
下葉(名) 枝の下葉。

下待

下待(他) 心待に待つ。
下待(他) 心待に待つ。
下待(他) 心待に待つ。

下屋敷

下屋敷(名) 支配下の役人。
下屋敷(名) 支配下の役人。
下屋敷(名) 支配下の役人。

下折

下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。

下葉

下葉(名) 枝の下葉。
下葉(名) 枝の下葉。
下葉(名) 枝の下葉。

下待

下待(他) 心待に待つ。
下待(他) 心待に待つ。
下待(他) 心待に待つ。

下屋敷

下屋敷(名) 支配下の役人。
下屋敷(名) 支配下の役人。
下屋敷(名) 支配下の役人。

下折

下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。



下折



下葉



下待

下折

下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。
下折(白下) 折れて下になる。折れ度。

実つゝ

(実つゝ) [十死] (名) 陰陽家にて大凶日の朝、病人を問はず、遠く行かず、萬事に懸かること。
(実つゝ) [十指] (名) 十本の指、又、衆人の指の指さすこと。
(実つゝ) [實事] (名) まことの事。
(実つゝ) [實字] (名) 形象あるものを示したる漢字、人、馬、山、川、草、木等の如し、虚字の對。

実つゝ

(実つゝ) [實論] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實證] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。

実つゝ

(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。

実つゝ

(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。

実つゝ

(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。

実つゝ

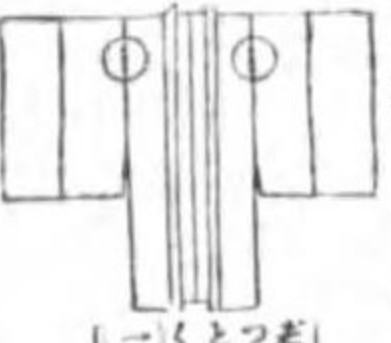
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。

実つゝ

(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。

実つゝ

(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。
(実つゝ) [實地] (名) 實地に施行する。



あつぱーあつむ

あつぱーあつむ (す) 成上から仕向を受けて、直にまかへしをなす。

あつむーあつむ

あつむーあつむ (す) 水に投身して死ぬ。海に、くさる。さがる。あつむーあつむ。

あつらーあつら

あつらーあつら (す) 其利用を増進すると、出願により登録を受けたるものは三年間若しくは希望によりて六年間

あつをーあつら

あつをーあつら (す) あつををに同じ。あつて「仕事」(名) 勤める人、行ふ人。

あでりーあでの

あでりーあでの (す) あでりーあでの (す) あでりーあでの (す) あでりーあでの (す) あでりーあでの (す)

あでのーあてん

あでのーあてん (す) あでのーあてん (す) あでのーあてん (す) あでのーあてん (す) あでのーあてん (す)

あてんーあざり

あてんーあざり (す) あてんーあざり (す) あてんーあざり (す) あてんーあざり (す) あてんーあざり (す)

あざりーあざく

あざりーあざく (す) あざりーあざく (す) あざりーあざく (す) あざりーあざく (す) あざりーあざく (す)



〔やまうど車〕

高ぶくー高ぶぬ

高ぶく(名) 自己に勝る道徳、公徳の對... 高ぶぬ(名) 坐し又は臥す下に敷く物...

高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 古貴高貴の氣又は神社佛閣など... 高ぶぬ(名) 指す所の名...

高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 市の區域内... 高ぶぬ(名) 死にたる人...

高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 玉を壁中に挿し上げ... 高ぶぬ(名) 死にたる人...

高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 竹刀(名) 擊劍の時に用ふるもの... 高ぶぬ(名) 竹刀竹(名) 前條に同じ...



高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 指す所の名... 高ぶぬ(名) 死にたる人...



高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 死にたる人... 高ぶぬ(名) 死にたる人...

高ぶぬー高ぶぬ

高ぶぬ(名) 死にたる人... 高ぶぬ(名) 死にたる人...

高ぬふ一高の音

高ぬふ(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高ぬふ(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高ぬふ(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高の音一高のは

高の音(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高の音(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高の音(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高のび一高のび

高のび(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高のび(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高のび(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高のふ一高のべ

高のふ(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高のふ(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高のふ(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高のま一高はい

高のま(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高のま(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高のま(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高はい一高ばら

高はい(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高はい(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高はい(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高ばら一高ばえ

高ばら(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高ばら(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高ばら(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。

高ばす一高ばす

高ばす(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高ばす(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。
高ばす(高) 忍(他)は四(一)まのぶに同じ。



[しごうはふ]



[いびえばふ]

高ひぬー高ふ

て、豆などのよく質のちぬもの、餅、十一世
【概】(名) 簡略の古稱。
高ひぬのき「椎木」(名) ①高ひぬに同じ。
高ひぬのみ「推實」(名) ①推の果實。②高ひぬ
の如く推實にして先端尖りたる彈丸。
高ひぬのき「推實」(名) ①手首に用ゆる磁石の推實
の如く推實にして先端尖りたる彈丸。
高ひぬのき「推實」(名) ①手首に用ゆる磁石の推實
の如く推實にして先端尖りたる彈丸。
高ひぬのき「推實」(名) ①手首に用ゆる磁石の推實
の如く推實にして先端尖りたる彈丸。

高ふー高ふい

る役又は人、もりや、つきせひ。
高ふ(四府) (名) 左近衛府右近衛府左兵衛府右
兵衛府の稱。
高ふ(私夫) (名) かくしを、まをと。
高ふ(師父) (名) 志まやうとち、又父として
高ひぬのき「推實」(名) ①手首に用ゆる磁石の推實
の如く推實にして先端尖りたる彈丸。
高ひぬのき「推實」(名) ①手首に用ゆる磁石の推實
の如く推實にして先端尖りたる彈丸。

高ふいー高ふか

高ふい(十友) (名) 名花十友に同じ。
高ふいた(四分板) (名) 厚さ四分の板、家の
めなどにつかう。
高ふいち(四分一) (名) ①一つのものを四つに
割りたるもの、一つ、四分の一。②化銅に其重量
の四分の一以下の銀を相したる合金、表面の酸化す
るまきは美麗なる特殊の光澤を發す、我國古來裝飾
用に供せらる。
高ふいち(十時) (名) 十一月(名) 年の第十一
番目の月、まもつ、仲冬。
高ふいち(十時) (名) 一時より歌へて
第十一番目に當たる時。
高ふいち(十時) (名) 一時より歌へて
第十一番目に當たる時。
高ふいち(十時) (名) 一時より歌へて
第十一番目に當たる時。



高ふかー高ふさ

高ふか(遊柿) (名) ①遊柿の味を有する果
實を結ぶ柿の總稱。②遊柿多くして食するに堪へ
ざる柿の果實。
高ふか(遊皮) (名) ①樹木又は果實のま
かば。②形が五つたる皮膚、指めけざる顔色、一
高ふかはり(遊川流) (名) 柔術の一、藤
川伴五郎を祖とす。
高ふか(習合) (名) 哲學上又は宗教上、彼
此の教理又は主義等を結合し若しくは折衷すると。
高ふか(習合) (名) ①種々の教理又は
主義等を結合し若しくは折衷して、派を立てたる
宗教。②折衷の義。
高ふか(習合) (名) ①種々の教理又は
主義等を結合し若しくは折衷して、派を立てたる
宗教。②折衷の義。
高ふか(習合) (名) ①種々の教理又は
主義等を結合し若しくは折衷して、派を立てたる
宗教。②折衷の義。

高ふくー高ふ

初年に設けられたる官廳、公議所の職務権限を總括
せしむ。
高ふく(重吹) (名) ①高ふくと。②高ふかれて飛
び散る細かさ水玉。③あめ「重吹雨」(名) 高
ふくになりて降る雨(斜雨)。
高ふく(什器) (名) 日常使用する器具、だう
ぐ、うつは、高ふくと。
高ふく(干義) (名) 父は高、子は孝、兄は長、弟
は弟(よく兄に事よると、夫は長たしきと)、高は
長(高きと、長は長は長は長は長と)、君は
仁(臣は忠なるべき十箇條の道)。
高ふく(褶曲) (名) ①高ふくよりてまがる
と。②地層が地殼の收縮又は火山の噴出等によ
りて、波状をなすと。③「褶曲谷」(名)
地層の褶曲によりて成りたる谷。④「高ふく
がく」(褶曲山岳) (名) 地層の褶曲によりて
生じたる山岳、地球上の山岳は大部分これに屬す。
高ふく(集金) (名) 金をよせ集むると、又、
よせあつめたる金。
高ふく(至福) (名) ことなきあはれ、無上の幸
高ふく(紙幅) (名) 紙の幅。
高ふく(雌伏) (名) 下層の地位に、ひてある
と、他のものに屈辱してあると。
高ふく(蓋苦) (名) 高ふくして、比がきと。
高ふく(重吹) (名) ①高ふくと。②高ふかれて飛
び散る細かさ水玉。③あめ「重吹雨」(名) 高
ふくになりて降る雨(斜雨)。

高ふくー高ふ

高ふく(時服) (名) 其時時に相する衣服。
高ふく(字腹) (名) 活字の字腹を作る型。
高ふく(羊蹄菜) (名) ①植物科に屬する草。
水邊に生ず、葉は大形にして葉の間に似る、花は三
脚黄色にして、葉状花序に排列す、食用に供せらる。
高ふく(羊蹄菜) (名) ①植物科に屬する草。
水邊に生ず、葉は大形にして葉の間に似る、花は三
脚黄色にして、葉状花序に排列す、食用に供せらる。
高ふく(羊蹄菜) (名) ①植物科に屬する草。
水邊に生ず、葉は大形にして葉の間に似る、花は三
脚黄色にして、葉状花序に排列す、食用に供せらる。

高ふくー高ふ

高ふく(集塊) (名) 多くのもの、集ま
りて一つと成りたるかたまり。①「かん」集塊
岩(名) 地火山灰と其他の大小の塊石と相あつ
まりて成りたる岩。
高ふく(十月) (名) 年の第十番目の月。
高ふく(習慣) (名) ①社會の一部若しく
は全部に於て、同一の場合に同一の行動をなす往來
の狀態からし、去きたり、風習。②個人が常に
同一の傾向を有する性情及行動の狀態、去きたり
③「せい」習慣性(名) ①(理) 物體が外物
の作用を受けざる時は、常に静止するが若しくは
一直線上に等速の運動をなすといふ性、即ち運動の
第一律の性質の稱。②「はふ」習慣法(名)
法律上効力を有する社會の習慣、不文法。
高ふく(四分官) (名) 四分三に同じ。
高ふく(集群) (名) ①むれあつまること。②

高ふくー高ふ

高ふく(習性) (名) ①社會の一部若しく
は全部に於て、同一の場合に同一の行動をなす往來
の狀態からし、去きたり、風習。②個人が常に
同一の傾向を有する性情及行動の狀態、去きたり
③「せい」習慣性(名) ①(理) 物體が外物
の作用を受けざる時は、常に静止するが若しくは
一直線上に等速の運動をなすといふ性、即ち運動の
第一律の性質の稱。②「はふ」習慣法(名)
法律上効力を有する社會の習慣、不文法。
高ふく(四分官) (名) 四分三に同じ。
高ふく(集群) (名) ①むれあつまること。②

煮ほぐー煮ほだ

煮ほぐもり(潮鏡) 海上の水蒸気によりて空の曇りて見ゆると。
煮ほけ(潮鏡) 海水の蒸気が掛かる。
煮ほけ(潮鏡) 食物の味又は量の程度分「が濃い」(鹹氣)
煮ほけ(潮鏡) 鹽漬にて海水を煮(煮)るときに立ちのぼる煙
煮ほけ(潮鏡) 水の色
煮ほけ(潮鏡) 鹽漬にて海水を煮(煮)るときに立ちのぼる煙
煮ほけ(潮鏡) 水の色
煮ほけ(潮鏡) 鹽漬にて海水を煮(煮)るときに立ちのぼる煙
煮ほけ(潮鏡) 水の色

煮ほだー煮ほな

煮ほだち(鹽漬) 神佛などに祈願をかけた、鹽氣ある食物を食はぬと。
煮ほだち(鹽漬) 潮のあわ(白、下二)
煮ほだち(鹽漬) 潮のあわ(白、下二)
煮ほだち(鹽漬) 潮のあわ(白、下二)
煮ほだち(鹽漬) 潮のあわ(白、下二)

煮ほなー煮ほひ

煮ほなる(潮鏡) 潮のあわ(白、下二)
煮ほなる(潮鏡) 潮のあわ(白、下二)
煮ほなる(潮鏡) 潮のあわ(白、下二)
煮ほなる(潮鏡) 潮のあわ(白、下二)

煮ほひー煮ほや

煮ほひる(潮干環) 乾燥に同じ。
煮ほひる(潮干環) 乾燥に同じ。
煮ほひる(潮干環) 乾燥に同じ。
煮ほひる(潮干環) 乾燥に同じ。

煮ほゆー煮ほん

煮ほゆ(鹽湯) 潮水を沸かしたる浴湯を去る。
煮ほゆ(鹽湯) 潮水を沸かしたる浴湯を去る。
煮ほゆ(鹽湯) 潮水を沸かしたる浴湯を去る。
煮ほゆ(鹽湯) 潮水を沸かしたる浴湯を去る。

煮ほがー煮ほが

煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。



煮ほがー煮ほだ

煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほが(島) 四面水にて囲まれたる土地。



煮ほだー煮ほひ

煮ほだ(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほだ(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほだ(島) 四面水にて囲まれたる土地。
煮ほだ(島) 四面水にて囲まれたる土地。

寒めゆー寒めん

寒めゆー寒めん
寒めゆー寒めん
寒めゆー寒めん
寒めゆー寒めん
寒めゆー寒めん

寒もー寒もけ

寒もー寒もけ
寒もー寒もけ
寒もー寒もけ
寒もー寒もけ
寒もー寒もけ

寒もじー寒もぢ

寒もじー寒もぢ
寒もじー寒もぢ
寒もじー寒もぢ
寒もじー寒もぢ
寒もじー寒もぢ

寒もぢー寒もべ

寒もぢー寒もべ
寒もぢー寒もべ
寒もぢー寒もべ
寒もぢー寒もべ
寒もぢー寒もべ



[けつ]

寒めぬー寒め

寒めぬー寒め
寒めぬー寒め
寒めぬー寒め
寒めぬー寒め
寒めぬー寒め

寒ゆー寒ゆ

寒ゆー寒ゆ
寒ゆー寒ゆ
寒ゆー寒ゆ
寒ゆー寒ゆ
寒ゆー寒ゆ



[や]

寒ゆー寒ゆり

寒ゆー寒ゆり
寒ゆー寒ゆり
寒ゆー寒ゆり
寒ゆー寒ゆり
寒ゆー寒ゆり

寒ゆりー寒ゆり

寒ゆりー寒ゆり
寒ゆりー寒ゆり
寒ゆりー寒ゆり
寒ゆりー寒ゆり
寒ゆりー寒ゆり



[う]

高ゆり

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高ゆり 高ゆり 高ゆり 高ゆり... 高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...



高ゆり (名) 高ゆり (名) 高ゆり (名)...

高やう一高やう

正金の取引をなす銀行、外國貿易上に於ける重要の機關にして、現時本店は横濱に設置せられ、支店又は出張所は内外國に於て貿易上重要な地に設置せらる。

(高やうくわん) 草句(名) 文章の句、又、草と句と。

(高やうくわん) 紫陽花(名) (種) あざむらに同じ。

(高やうくわん) 樂果(名) (種) 多向にして、漿質なる果實、葡萄、柿の類の果實これなり。

(高やうくわん) 唱和(名) (種) うたをうたひはじむるとこれに和してうたふと。

(高やうくわん) 情火(名) 感情の起りあがるさまを火にたとへいふ語。

(高やうくわん) 商會(名) 商業のために結ぶる組合(商社)。

(高やうくわん) 情懷(名) 情懷の起りあがるさま。

(高やうくわん) 城外(名) 城のそと。

(高やうくわん) 上皇(名) 天皇の御即位あらせられたる後の稱。

(高やうくわん) 城障(名) 城のほり。

(高やうくわん) 城郭(名) 城のくるわ。

(高やうくわん) 城郭(名) 城のくるわ。

(高やうくわん) 城郭(名) 城のくるわ。

高やう一高やう

將中將少將の稱。

(高やうくわん) 奨勳(名) すめはげますと、す、むと。

(高やうくわん) 商館(名) 商人の營業する處、特に外國商人の營業する處(商館)。

(高やうくわん) 娼館(名) ぜうろうや、遊女などあがむかへすと。

(高やうくわん) 償還(名) つかうひかへすと、あがむかへすと。

(高やうくわん) 賞賚(名) つかうひかへすと、あがむかへすと。

(高やうくわん) 政官(名) 太政官の官吏。

(高やうくわん) 上院(名) 月の上旬(上院)。

(高やうくわん) 上官(名) 上級の官、うはやく、にんげん。

(高やうくわん) 情願(名) 情願を陳べて。

(高やうくわん) 償還基金(名) 償還の爲めにあつて、他に運用せざる基金。

(高やうくわん) 聖觀世音(名) 佛、左手に未生怨の蓮華を把り、一切衆生の妙法蓮華の未生怨を救ふがしめんとての意を表したる像の觀音。

(高やうくわん) 商慣習(名) 商業上の慣習。

(高やうくわん) 將軍(名) 一軍の指揮官をつかさどる人、軍の大將。

(高やうくわん) 山田(名) 山田。

高やう一高やう

軍家(名) 國政をめぐる任與大將軍の稱。

(高やうくわん) 賞勳局(名) 内閣に屬し、勳位勳章記章褒章其他の賞に關する事務及外國の勳章記章の受領及佩用に關する事項を掌する一局、總裁及決定官を置く。

(高やうくわん) 生氣(名) 陸陽家にて、十二支を十二箇月に配し、正月を子とし、順次、十二月に至る方を指し、又、これに關して吉なる方に吉國應したる衣の色などを定むると、「の」色。

(高やうくわん) 障眼(名) さ、はり、さ、はり、障と返り、「障」。

(高やうくわん) 上下(名) 上、下。

(高やうくわん) 上刑(名) 古貨禁中の公事と返り、「刑」。

(高やうくわん) 商計(名) 商計。

(高やうくわん) 昌慶(名) 昌慶。

(高やうくわん) 晶形(名) 結晶したる物のありさま。

(高やうくわん) 象形文字(名) 象形文字。

(高やうくわん) 上計(名) 上計。

(高やうくわん) 情景(名) 情と景と。

高やう一高やう

至、ありさま、やうす、感したるありさま。

(高やうくわん) 聖教(名) たふとく、神の教、即ち佛敎の稱。

(高やうくわん) 摺摺(名) たけくするさま、あつと。

(高やうくわん) 淨潔(名) きよきよ、いさまじ。

(高やうくわん) 城關(名) 宮城、皇居。

(高やうくわん) 商業(名) 經濟上にては、貨物の轉換を媒介し又はこれを補助するものより利益を替む業務、法律上にては、銀行の業務ありとす。

(高やうくわん) 商業學校(名) 商業學校。

(高やうくわん) 商業組合(名) 商業組合。

(高やうくわん) 商業會議(名) 商業會議。

(高やうくわん) 商業銀行(名) 商業銀行。

(高やうくわん) 商業組合(名) 商業組合。

(高やうくわん) 商業會議(名) 商業會議。

(高やうくわん) 商業銀行(名) 商業銀行。

(高やうくわん) 商業組合(名) 商業組合。

(高やうくわん) 商業會議(名) 商業會議。

(高やうくわん) 商業銀行(名) 商業銀行。

券(名) 商業上の取引に使用する證券、即ち株券、債權證券其他各種の証券これなり。一、高やうにん(商業使用人)(名) (法) 商人に代はりて其營業に關する法律行為をなすために備はれたるもの、即ち支配人、番頭、手代等これなり。一、ちやうぼ(商業帳簿)(名) (法) 商法の規定により、商人が其財産の状況を明確ならしむるために作成せざるべからざる帳簿、現時の規定にては日記帳、財産目録、貸借対照表の三種なり。一、ちり(商業地理)(名) 貨物の製造産出、分配、交換其他内外の運輸交通等の状態に關する地理。一、ざり(商業登記)(名) (法) 商人が法律上の關係其他變更、廢止等を公示し、世間公衆をしてこれを知らしむる爲めの制度、商人の營業所在地の區裁判所に備へ置ける商業登記簿に登記してこれをなす。

(高やうけん) 商權(名) 商業上の勢力。

(高やうけん) 將監(名) 古昔、近衛府の判官。

(高やうけん) 昌言(名) 昌言。

(高やうけん) 詳言(名) 詳言。

(高やうけん) 彰顯(名) 彰顯。

(高やうけん) 莊嚴(名) 莊嚴。

(高やうけん) 象限(名) 象限。

(高やうけん) 數(名) 數。

(高やうけん) 上件(名) 上件。

(高やうけん) 上元(名) 陰曆正月十五日の朔、豆粥を食ひたまふこと。舊日、疫病除のまじひとて、當日、まじひの日に、赤小豆の粥を食ひたまふこと。

(高やうけん) 上弦(名) 新月より満月に至る間に、太陽よりの角距離九十度となりたるとき、太陽の照る半面見え、上方に其直徑あるが故に此名あり、陰曆毎月七日八日の頃なり。

(高やうけん) 象限儀(名) 天の角度を測る器、圓周の四分の一より成る。

(高やうけん) 鐘鼓(名) 鐘鼓。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 正午(名) 正午。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

(高やうけん) 尙古(名) 尙古。

赤ゆり

赤ゆりさく(上作)一名 好き出来 赤ゆりさく(上策)一名 最もよきかりごと 赤ゆりさく(上策)一名 最もよきかりごと 赤ゆりさく(上策)一名 最もよきかりごと

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)



赤ゆり

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)

赤ゆり

赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい) 赤ゆり(常時)一名 つねにふだん(いざい)

東やう一東やう

する量を示す数、即ち比喩、比類、比軍、比折、率等の如し。
(東やうずこかし) (名) わたしめこかし。厄介
(東やうすゐ) (名) 将帥 (名) 兵隊をひきゐる大
(東やうすゐ) (名) 祥瑞 (名) めてたきまが、よる

東やう一東やう

海軍用文機関に関する學術、技術を教授する學校
(東やうせん) (名) (生前) (名) 死後に對して、生き
(東やうせん) (名) (上船) (名) 船に乗ると (乗船)
(東やうせん) (名) (上禮) (名) 突に上りて仙人

東やう一東やう

(東やうぞく) (名) (戦賊) (名) さりて人をそこなふ
(東やうぞく) (名) (上屋) (名) 上層の門扉、高脚
(東やうぞく) (名) (将卒) (名) 將校と兵卒と
(東やうぞく) (名) (讓遜) (名) 自ら卑下して人に

東やう一東やう

(東やうたり) (名) (唱導) (名) まきだちとなりて
(東やうたり) (名) (聖道) (名) (佛) い天台及眞
(東やうたり) (名) (常套) (名) つねのよかた、き

東やう一東やう

又其人「下」と下ととは移らず。
(東やうち) (名) (情致) (名) あらむき、雄歌
(東やうち) (名) (城池) (名) あるのほり、「牧す」
(東やうち) (名) (常置) (名) つねに設けてある

東やう一東やう

は美妙の天地に據せしめんとする主義。
(東やうち) (名) (常置員) (名) 常置してある
(東やうち) (名) (祥月) (名) 死者の一周忌以後の
(東やうち) (名) (祥禮) (名) めてたきと、めてた

東やう一東やう

作に通したるもの。
(東やうち) (名) (佛) い三層五層の欄
(東やうち) (名) (佛) い佛の居所といふ清淨の世
(東やうち) (名) (佛) い佛の居所といふ清淨の世

東やう一東やう

(東やうち) (名) (佛) い佛の居所といふ清淨の世
(東やうち) (名) (佛) い佛の居所といふ清淨の世
(東やうち) (名) (佛) い佛の居所といふ清淨の世

高やうー高やう

(高やうのり)は(尙農派)名(經)經濟の取
取上農産を主とする學派は天下の大本なりと
いふ語は、即ち其意なり。
(高やうの)こ(争)名(さう)に同じ。
(高やう)の(ふえ)名(ま)まやうに同じ。
(高やう)は(い)名(賞)賞の表とする記
章多くは金銀を賞としてつくりたるもの。
(高やう)は(い)名(賞)賞の表とする記
章として用はるる。
(高やう)は(い)名(賞)賞の表とする記
章として用はるる。
(高やう)は(い)名(賞)賞の表とする記
章として用はるる。

高やうー高やう

(高やう)は(く)名(上)上肢のひざより上の
部。——(上)上肢骨(名)生(上)上肢骨形成
せる骨の骨上は肩胛骨と連り、下は尺骨及び腕
骨と接す。
(高やう)は(く)名(上)上肢のひざより上の
部。——(上)上肢骨(名)生(上)上肢骨形成
せる骨の骨上は肩胛骨と連り、下は尺骨及び腕
骨と接す。
(高やう)は(く)名(上)上肢のひざより上の
部。——(上)上肢骨(名)生(上)上肢骨形成
せる骨の骨上は肩胛骨と連り、下は尺骨及び腕
骨と接す。

高やうー高やう

くわ(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。

高やうー高やう

(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。

高やうー高やう

(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。

高やうー高やう

(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。

高やうー高やう

(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。

高やうー高やう

(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。
(高)高(名)種(種)種海菜等の如き
多年生植物は完全なる羽狀葉にして、花冠は
花筒をなす。果實は核果なり、此科に屬する植物は
美味なる花と食用となる果實とを有するもの多し。

京やうー京やう

(京やうりやう) 賞揚(名) はめたふると。
(京やうりやう) 御祥(名) たちもとはると。
(京やうりやう) 常宿(名) 常にやどるやど。
(京やうりやう) 常夜燈(名) 事方より夜明まで點火しなく燃ゆ。

京やうー京やう

(京やうりやう) 上落(名) 貴人の都へ上る。
(京やうりやう) 上取(名) 貴人の都へ上る。
(京やうりやう) 上座(名) 二位又は三位の貴人の都へ上る。
(京やうりやう) 上流(名) 地位上なる人々の社會。

京やうー京やう

(京やうりやう) 上陸(名) 船より陸にのぼる。
(京やうりやう) 上陸地(名) 外國に上陸したるとき、荷物を運ぶ。
(京やうりやう) 上陸率(名) 生物の種類年輪又は労働の如何により必要とする遊歩分の割合。
(京やうりやう) 上流(名) 地位上なる人々の社會。

京やうー京やう

(京やうりやう) 上座(名) 二位又は三位の貴人の都へ上る。
(京やうりやう) 上流(名) 地位上なる人々の社會。
(京やうりやう) 上院(名) 寺院又は學堂などの二院間の議會にて、貴族若しくは勳功者若しくは識識せられたるもの。
(京やうりやう) 上院(名) 寺院又は學堂などの二院間の議會にて、貴族若しくは勳功者若しくは識識せられたるもの。

京やうー京やう

(京やうかい) 射界(名) 第九の到達する距離。
(京やうがい) 車蓋(名) くるまのかさ又ははし。
(京やうがい) 車蓋(名) くるまのかさ又ははし。
(京やうがい) 車蓋(名) くるまのかさ又ははし。

京やうー京やう

(京やうか) 射角(名) 第九の射線と水平線とのなす角。
(京やうか) 射角(名) 第九の射線と水平線とのなす角。
(京やうか) 射角(名) 第九の射線と水平線とのなす角。

京やうー京やう

(京やうかん) 左官(名) さくわんの職。
(京やうかん) 左官(名) さくわんの職。
(京やうかん) 左官(名) さくわんの職。

京やうー京やう

(京やうかん) 左官(名) さくわんの職。
(京やうかん) 左官(名) さくわんの職。
(京やうかん) 左官(名) さくわんの職。



【これうかやぶ】



【ごかやぶ】

生活をなす組織又は團體。同種類の範圍同一の仲間。——い。社会意思(Collective mind)。

は組合設置教育普及等これなり。——せい。社会精神(Collective will)。

ジヤケツ(名) ジャケットに同じ。ジャケツ(Dack) (名) 洋服の上の短かくして僅かに開けらるる短襟。



蝎(Scorpion)

腰を申して腰上の座につきし儀式。——さい。社会(名) 土地の神のまつり。

て、砂洲の一方に延長したるもの。——さ。社会(名) 文字を寫すこと。

れて人の妨害をなすもの。——さ。社会(名) 酒洒落落(名) (名) 副性又は運動のまぼりとして、軌着する所なきまぼり。



カメラ(Camera)

黒布をかけ、これを伸縮し、後壁の摺輪子(スリ)上の映像鮮明なるを待ち、レンズの蓋をなし、摺輪子の取柄(トリ)を取りはげして、感光板を入れたる取柄を放ち、取柄の内方の蓋を引出し、レンズの蓋を放ち、露光せしむるなり。

なる鹽化金の溶液に小量の炭酸ソーダ(Na2CO3)又は硫酸アンモニア(NH4)2SO4を加へて、鹽基性としたる溶液に浸せしめて、陽電となすと、斯くて表面は暗紫色を帯び、鮮明なる畫像を生ず。

赤ゆり

赤ゆり(名) 純粋の純たる。シヤリ(名) 純粋の純たる。...



赤ゆる

赤ゆる(名) 一生懸命になりて、奮つとむる。赤ゆる(名) 蛇類(名) 蛇類(名)...

赤ゆる

赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名)...



赤ゆる

赤ゆる(名) 貨物一歩の四分の一即ち兩の十六分の一、銀目の三分七厘五分にあたる。赤ゆる(名)...

赤ゆり

赤ゆり(名) 赤ゆり(名) 赤ゆり(名) 赤ゆり(名)...

赤ゆる

赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名)...

赤ゆる

赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名)...

赤ゆる

赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名) 赤ゆる(名)...

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

宗ゆり

宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。宗ゆりとは(宗派)名 宗門の分岐。

赤ゆかー赤ゆき

赤ゆかかん(樹幹)名 樹木の幹。
赤ゆき酒(酒)名 酒の赤い。
赤ゆき手記(手記)名 手記の赤い。

赤ゆきー赤ゆく

赤たい(狩獵時代)名 狩獵時代の赤い。
赤ゆきよ(酒)名 酒の赤い。
赤ゆきよ(珠玉)名 珠玉の赤い。

赤ゆくー赤ゆり

赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。

赤ゆくー赤ゆく

赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。

赤ゆくー赤ゆく

用の場合の多く定まれる漢字。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。

赤ゆくー赤ゆく

赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。

赤ゆくー赤ゆく

赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。

赤ゆくー赤ゆく

赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。
赤ゆく(見)名 赤く見せる。

京より一京より

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

京より一京より

じ、(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

京より一京より

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

京より一京より

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。



きりりやぶ

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。
(京より)へり(証) (名) 或事務の證として使ふ。

京より一京より

京より一京より

京より一京より

京より一京より

高よは

高よはち(初日)名 物事を始むる日、はじめの一日。
高よはち(初日)名 物事を始むる日、はじめの一日。
高よはち(初日)名 物事を始むる日、はじめの一日。

高よは

高よはん(初番)名 順番のはじめ。
高よはん(初番)名 順番のはじめ。
高よはん(初番)名 順番のはじめ。

高よは

高よは(初歩)名 てはじめ(初歩)。
高よは(初歩)名 てはじめ(初歩)。
高よは(初歩)名 てはじめ(初歩)。

高よは

高よめん(忍免)名 ゆるしてとめざると。
高よめん(忍免)名 ゆるしてとめざると。
高よめん(忍免)名 ゆるしてとめざると。

高より

高より(助力)名 たすけてつたひ、すくひ。
高より(助力)名 たすけてつたひ、すくひ。
高より(助力)名 たすけてつたひ、すくひ。

高より

高より(諸王)名 親王宣下のなき皇子。
高より(諸王)名 親王宣下のなき皇子。
高より(諸王)名 親王宣下のなき皇子。

高より

高より(接尾)名 知らぬの語を以て、推測して。
高より(接尾)名 知らぬの語を以て、推測して。
高より(接尾)名 知らぬの語を以て、推測して。

高より

高より(白紙)名 白く塗りたる紙、粉紙。
高より(白紙)名 白く塗りたる紙、粉紙。
高より(白紙)名 白く塗りたる紙、粉紙。

